

## 議 事 錄

会議の名称	令和7年度 第2回 愛荘町総合教育会議
開催日時	令和7年11月27日（木）午後2時00分～午後3時20分
開催場所	愛荘町役場本庁舎 3階 第2委員会室
出席者	<p>【構成員】7名            町長 有村 国知、副町長 杉本 甚治郎、教育長 徳田 寿            教育長職務代理者 森 秀昭            教育委員 黒川 泰守、木津 知里、森野 啓子</p> <p>【事務局】8名            教育次長 陌間 秀介 学校教育担当課長 西澤 仁志            生涯学習課課長 水谷 徹也 愛知川公民館長 本田 有弘            図書館館長 三浦 寛二 歴史文化博物館長 下村今日子            教育振興課長補佐 橋本 康介 教育振興課長補佐 久保川美晴</p> <p>【傍聴者】0名</p>
議事日程	<p>協議・報告事項            ・「子どもの放課後の居場所について」 教育振興課 橋本康介</p>
議事録作成者	教育振興課 久保川 美晴
教育次長	<p>午後2時00分開会</p> <p>皆さんこんにちは。            ただいまから令和7年度第2回目となります愛荘町教育総合会議を開催いたします。            はじめに有村町長からご挨拶をお願いします。</p>
町長	<p>みなさま、こんにちは。</p> <p>本日は、令和7年度の第2回目となります、愛荘町総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>まずもって先日の愛荘町制20周年記念式典、多くの皆様にお力をいたしました、無事に終えることができました。この20年という節目の年を、教育関係の皆さん、教育委員の皆さんとともに迎えられて本当にありがたいことであると思っております。</p> <p>その日は同時開催ということでございましたけれども、愛知中学校の生徒さんが中心となって、町内の事業者さんたちにもかなりご指導いただいて、キャリア教育の一環で、あれほどの規模でできたものはなかなかないことがと思いますが、実際の現金のやり取り、商品のやり取りまでもが出来たものということでもありますし、大変素晴らしいものであったという</p>

風にも思います。

西武の開発の方々、設置業者の方が来庁されていました。常安寺のところに西武の森というのがあります。色々と手を入れていこうということで西武の方々が主体でお考えをいただいている次第です。

それでは改めてご挨拶申し上げます。

日頃から教育委員の皆様方には、本町の教育行政につきまして本当に深いご理解とご支援をいただいておりますことを厚く御礼を申し上げます。

さて、この総合教育会議は、町当局と教育委員会とが十分な意思疎通を図り、愛荘町の教育の課題やあるべき姿を共有し、議論を深め、同じ方向性のもと、連携して確かな一步を進めていく場と認識しております。

第1回総合教育会議で協議いただいた「子どもの放課後の居場所について」は、その後「これから愛荘の教育を考える円卓会議」においてさらに議論を重ねていただきました。

本日は教育振興課より円卓会議での経過報告を行うとともに、社会教育の視点を取り入れ、地域全体の学びをどう展開していくか、「こどもまんなか社会」の実現に向けた事業展開についての方策を皆様の知見とアイデアで深めてまいりたいと考えております。

行政だけでなく保護者や地域社会とも連携し、どのように支援を行い、子どもたちが安全・安心に過ごせる居場所づくりを進めていくかについて、忌憚のないご意見を交換できればと存じます。皆様のお知恵や経験をお借りし、子ども一人ひとりが安心して過ごせる居場所づくりについて、さらに議論を深めてまいりたいと考えております。

本日の会議が実り多いものとなりますことを心より祈念し、ご挨拶いたします。

教育次長

ありがとうございました。

本日開催いたします総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4で定められている会議でございまして、町長と教育委員会が愛荘町の教育課題や目指すべき姿を共有し、連携して教育行政を推進しようという会議でございます。

本日は、第1回に引き続き「子どもの放課後の居場所について」をテーマとして、意見交換をしていただきたいと思いますので、よろしくお願ひ申しあげます。

また、令和8年度から総合教育会議にて報告が必要となる公立学校の教育職員の「業務量管理・確保措置実施計画」についての概要を事前に簡単ではありますが説明させていただきます。

では会議の運営につきましては、愛荘町総合教育会議設置要綱に基づいて進めてまいりたいと思います。

	<p>早速ではございますが、設置要綱第4条によりまして、町長が議長になることから、会議の進行を有村町長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。</p>
議長（有村町長）	<p>それでは設置要綱に基づいて、議長を務めさせていただきたいと思います。ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。</p> <p>次第の2 議題「子どもの放課後の居場所について」にかかる意見交換です。それでは意見交換に先立ちまして、教育振興課より前回会議後の事業の報告等を含めて説明をしていただきます。よろしくお願ひします。</p>
教育振興課 課長補佐	<p>—資料に基づき説明— (説明要約)</p> <p>6月に開催いたしました第1回会議テーマ「子どもの放課後の居場所」についての統編。外部有識者を交えた円卓会議での検討に加え、児童を対象としたアンケート調査等を実施。検討結果等を交え、報告。</p> <p>町では、愛荘町教育大綱・教育振興基本計画に基づき、令和4年4月から「未来を拓く愛荘16年教育」をスタート。なかでも中学校卒業段階のめざす子どもの姿を「主体的・自律的な学び、探求的な学びができる子ども」としており、現在、学校との綿密な連携のもと、自分で考え、判断し、行動していくける自律型人材の育成ならびに自己調整力を高める取り組みを進めている。その一環として、小学校における40分授業、午前5時間制の導入を実践、各児童が目標に合う学習プラン、学習内容を柔軟に計画に移し、実行に移していくことにチャレンジしている。</p> <p>小学校における40分授業、午前5時間制の導入については、令和6年度に秦荘西小学校を文科省の指定研究開発学校としてスタートし、令和7年度には秦荘東小学校に拡大、令和8年度には愛知川地域を含め、町内4つの小学校すべてが実践していく予定。制度導入により考えられる課題として、「授業時間の短縮」に関連する学力の問題、「下校時刻の早さ」の2点について、第1回の総合教育会議の場でも説明。授業時間の短縮に関しては、授業時間が5分短くなったことで、逆に午前の落ち着いた時間帯にリズムよく集中して5時間の学習に取り組むことができるに加え、先生方の授業の工夫、短縮によって生み出された時間を有効に活用しており、例えば秦荘西小学校では「秦西タイム」という自己選択学習に取り組んでいることから、授業時間の短縮に関連する学力の課題というよりも、むしろ、意欲的な学習環境がつくられている。一方で下校時刻の速さについては、6時間目のない小学校1年生の児童は、従来までより早く下校することになる。共働き家庭については働き方を検討しなくてはならなくなるなど、昨今のライフスタイルの多様化等に伴う社会課題もあいまって、子どもたちの選択肢が広がる放課後の居場所の検討、放課後の充実が今後の重要なテーマ。そのため、令和5</p>

年度に設置いたしました「これからの愛荘の教育を考える円卓会議」を活用し、検討していくこととした。

○これからの愛荘の教育を考える円卓会議の運営について

子どもの権利条約やこども基本法、また子どもの居場所づくりに関する指針等を踏まえ、子どもたちの放課後の居場所、また日常的な居場所の創出に向けた議論、施策案の検討を行う場としてスタート。構成メンバーには県立大学の学識の先生、学校の教員、主任児童委員等に加えまして、現在、愛荘町内で居場所づくりを実践されている人材等の11名に委員として参画いただき、これまで計4回にわたる会議を開催し、様々議論を重ねてきた。7月開催の第1回の会議では、現在の愛荘町の取組や秦荘西小学校の先進的な取組を報告、子どもたちには多様な居場所があり、目的に応じ、様々な居場所が求められているということを全国の事例等から共通理解いただいた。続いて第2回の会議では、委員に2班に分かれていいただき、子どもが輝く居場所をテーマにワークショップを実施。ワークショップの概要等については、A班、B班に分かれた委員が地域的な視点から「こういう居場所があれば」、「居場所づくりで大切にしたいこと」などを自由に議論いただいた。A班の議論内容：重要な部分が人との関わりやつながりの構築であり、居場所を利用する子どもも、今後、居場所を運営するで、あろう地域の大人も心理的安全性が確保されなければならないという点が共通項目としてあがつた。デジタルデトックスという言葉のとおり、子どもたちはテレビやゲーム等のメディアにふれる機会が日常となっており、学びや遊び、体験の必要性に加え、のんびり過ごすという休息、余暇の必要性も重要であるとの意見が出た。このような議論を踏まえ、実際に町内の子どもたちは学校終わりの放課後について、どのような感覚を持ち、どのように過ごしたいと思っているのかなどの意向を調べるために、4小学校のすべての児童生徒を対象にアンケート調査を実施。放課後の居場所に関するアンケートと題して、夏休み明けの9月9日から25日の間で実施し、回答率は73%。

・放課後、主にどこで過ごしているか?→低学年は、家または学童という回答が多い。学年が上がるにつれ、家または友達の家という回答が多い。

・放課後、主に何をして過ごしているか?→各学年「宿題をする」。同様に高い割合=テレビやゲーム。デジタルデトックスの必要性という点もこれら回答から裏付けがとれる結果となった。

・放課後に誰と一緒に過ごすことが多い?→家族、友だちの回答が多く、学年が上がるにつれ、友達を選択する児童が多くなっていることがわかる。

・放課後の居場所に満足しているか?→7割超が、現状の過ごし方に満足している。学年が上がるにつれ、満足傾向が高くなっている。学童を利用する割合が多い低学年よりも学年が上がるにつれ、行動範囲が広がり、放課後の遊び方の自由度が高まる高学年の方が、満足傾向が高くなっていることがわかる。

・今後、学校が放課後の居場所となった場合、そこで新しく取り入れてほしい

ことは何か?→もっと友だちと遊ぶ時間が欲しいが一番多い回答。学年が上がるにつれ、何もせず、のんびりできる時間が欲しいという回答の割合が高く、塾や習い事で、十分な休息や余暇がとれない児童が一定数いることも推測できる。

・今後、学校が放課後の居場所となった場合、どのような場であってほしいか?  
→好きなことをして自由に過ごしたいが圧倒的に多い。

アンケート調査結果による子どもたちの意向、委員によるワークショップの結果を踏まえ、第3回・第4回の円卓会議でも2班に分かれたワークショップ形式により具体的な構想案の検討実施。今後も議論継続するが、現時点での検討状況を説明。

高槻市、枚方市、西東京市、川崎市、県内の多賀町など、いくつもの自治体の取組事例を参考とした。これらの自治体の共通点は、40分授業午前5時間制を導入していない自治体である。放課後の子どもの居場所に取り組む自治体は全国にいくつも存在しており、下校時刻の早さに限らず、放課後の居場所を重要なこども施策として展開されている。

愛荘町においても年々、3世代同居の家庭が減少傾向、核家族化が進展、このような事業が不可欠。

現時点における事業の概要：町内の児童が自由にかつ主体的に想像し、学び・活動できる場として、放課後に学校施設の一部を開放していきたい。児童の預かりを目的とした支援策ではない。学校生活とは切り離し、学校外の活動を前提とする。居場所の利用については各家庭で話し合い、各家庭で責任を持って利用してもらうという点が重要。対象施設は町内の4小学校。小学校1年生から3年生までの児童が基本、全校児童が早く下校する水曜のみ、全学年を対象にしてはどうかという意見もある。対象児童について、潜在数が把握できていないため、近いうちに保護者に対する意向調査を実施する予定。開設日・時間については、平日のみの14時から16時とし、学童との区別化を図る。利用料金に関しては原則無料。学校保険の適用範囲などを十分検証し、必要に応じ、徴収する形式にすると考えている。活動場所は各小学校の空き教室を拠点、状況に応じて利用可能な校庭や体育館を開放。児童数が減少傾向にある秦荘エリアの学校と減少幅の小さい愛知川エリアの学校とでは実態が異なるため、学校とも十分議論を行い、各校の特色を出していく。運営手法は、町が事業の主体、子どもたちを見守る人材として、シルバー人材センターと密な連携を行い、試行的に進めていく。事業の開始は、令和8年の夏休み明け、2学期から実施していきたい。事業開始までに検討事項が多く、ひとつずつ精査していく。

本事業のねらい：学校施設の一部を活用した放課後の居場所の創出により、子どもたちの思考力や想像力を育み、自己肯定感を高めていくこと。また子どもに関わる地域の大の方々がいきがいややりがいを実感できる学びの人材循環を目指していくこと、これら両輪の取組により「こどもまんなか社会」の実現に向けたまちの活力の向上を目的とする。学校という施設が、子どもたちにとっても、

	<p>子どもたちに関わる地域の大人にとって有意義な居場所となることが重要、学校が子どもたちにとって地域の大人にとって居心地の良い、人生100年の学びを推進することができる「みんなの公民館」のような位置づけになるよう取り組んでいきたい。</p> <p>先日の町制20周年記念イベントでは、起業体験として愛知中学校1年生26チームが自ら企画した商品等の実践販売を行った。この事業についても、生徒だけでの成功は難しかった。地域の方々の理解、地域の方々の協力があってこそ。ますます子どもたちを取り巻く環境が重要になってくる。地域の子どもは地域が見守るという観点のもと、引き続き事業開始に向け、検討を進めていくため、ご指導、ご助言等いただけるとありがたい。</p>
議長（有村町長）	<p>ありがとうございました。</p> <p>挨拶の中でも申し上げましたが、委員の皆さまから、この事業を実施するにあたり、社会教育の視点を取り入れ地域全体の学びとしてどう展開していくのか、「こどもまんなか社会」の実現に向けた事業展開についてのご意見等をいただきたく存じます。</p> <p>愛荘町では教育環境に関して意欲的な取り組みを現場の方からも出していただいている。今年は秦荘東小学校でも動いておりますし、来年度は町内全小学校で取り組んでいくところです。</p> <p>私もいろいろ子育て世帯の方とお話してると、意欲的なことはありがたい、一方、現実として、早く子どもが帰ってきてしまうという率直な思いとしてはあるということを聞いております。愛荘町として良い形で居場所の構築が出来ればと思っております。</p> <p>教育委員の方、副町長、教育長と意見を伺っていきたいと思います。 木津委員よろしくお願いします。</p>
木津委員	<p>学校を開放してもらえるというのは、保護者は喜ぶと思います。去年、一昨年ぐらいからコロナも終わり、子どもたちが外に出てもいい状態になっても、働いている保護者の方がいらっしゃる家庭だと、友だちを家に呼ばれると困るからということで保護者のいる家庭にどうしても子どもたちが集まってしまって、その家庭に負担がすごくかかるてしまうのでせめて雨の日だけでも体育館を開放してもらえないかという声が一昨年ぐらいにすごく聞いていたので、こうやって学校の一部を開放していただけるとすごく助かるという声が上がるだろうなと感じます。</p> <p>自習室さんとかだと多分個室がいっぱいあるので、それぞれの部屋で、思い思いの過ごし方ができるというのがあると思うのですが、学校だと多目的室という大きな教室の中で、仕切り等を作った方がいいのかなと思いました。みんなでワイワイ遊びたいばかりでもないと思いますし。</p>

	<p>アンケートでどういうふうに過ごしたい、この場所への希望としても、「何もせずにんびりできる」という結果がありました。ただ、子どもの何もせずにんびりというのは多分スマホを見てダラダラしたい、何もしないにはスマホをしないということでは答えていないと思います。何もせずにダラダラしたい、のんびりできるというのは、スマホを見たいが含まれている気がします。デジタルデトックスできるように、のんびりできるけど、スマホを触らずすむような、何かが提案できたらと思います。</p> <p>愛荘町で色々ボランティア活動されてる方で、愛荘ニットっていう活動されている方がおられます。毛糸でとにかく四角を作る、それぞれが作った四角を繋げて大きなニットラッピングという1枚の布にしますという活動で、それを福祉施設とかの壁に巻いてぶつかっても痛くないようにするとか、心が不安定な人たちが触れて安心できるようなものを作つて活動されてる方がいらっしゃいます。そういう方に来てもらって、スピードも気にせず、できてもできなくてもいい、いつ仕上がりてもいい、毛糸と縫い針を準備しておいて創作できる、そういう方たちにも声をかけて助けていただくような場所になつたらいいなと思いました。</p> <p>あと見守ってくださるシルバーの方たちにどこまでの責任をお願いするのか、すごく大事かなと思っております。子どもたちって悪さもするので、そういうところのシルバーの方たちに注意してもらうところまでさせてしまうのか、緊急のけがをしたら手当するぐらいなのか、他は何も声出さなくて見ているだけでいいとか、そういうところも決めた方がシルバーの方たちも心の負担が少ないのかなと思いました。</p>
議長（有村町長）	<p>ありがとうございました。</p> <p>シルバーの方との件で、何か協議している事項等ありますか。</p>
教育振興課 課長補佐	<p>確かに木津委員おっしゃる通り、シルバーさんが責任を感じてしまうような事業になるのはだめだなあと話をしています。ただ、シルバー人材センターの事業としても草刈とか木の枝打ち等の作業よりも、子どもたちと関わって生きがいとかそういうものを感じられるものに参画していくというお話をされていました。こういった事業を町と一緒にタイアップしていくのであれば、目玉事業として、新規会員の拡充とともに見据えながら、色々と協力していかなければというような意欲的なお声をいただいているような状況でございます。</p>
議長（有村町長）	<p>ありがとうございます。続いて、森委員お願いします。</p>
森委員	<p>お話伺って、全体のイメージとしては、こういうのがいいな、こういう</p>

ことができるといいなっていう考えはずつと思っています。

今の子どもにとって、じっとしているというのは一体何なのか、そのポイントが非常に大きいなと感じています。

私も孫のところに行くと遊びに付き合われます。最初に声をかけられるのは、「ゲームやろう」です。わからないと話すと「教えてあげる」と言い、違うよと怒られながらやっています。ゲームも、1人でやる、兄弟でやる、私が入るとか、色んなパターンで子どもたちなりにやっています。メディア関係に入り込む速さというのはすごく速いなと思います。これを作り生かしていくか、生かす方に考え方をかっていう話を以前教育委員会でもしていました。今までではストップ方向にあったものを、どうしたらプラスに変わっていくんだろうかというような話を皆さんとさせていただきました。

ある程度、場所と道具や本、紙芝居を置いたりしておくと、孫も自分たちで考えて物を使ったりして、遊んでいます。

子どもたちの取り組みの仕方というのも色々なことで形を作れるようならいいなと思っています。

ケガをした時等の保障とかその辺についてはきちんと決めておかないと、本当に難しいし、いくら保護者の責任です、保護者の意向で実施しているとしても、今の世の中難しいのではと考えると、やはり事業を実施するあたって本当に子どもたちが自由に動けるという環境を作っていくないと駄目だなっていうことを感じております。

また何かありましたら、後ほどお話させていただきます。

議長（有村町長）

ありがとうございました。

責任の所在であったり、子どもたちはじっとしてないからねというところが大切なテーマなのかなというふうに思います。社会で最終的には自分の安全は自分で守るということも踏まえて、社会の在り様ということは、大人がしっかり姿を見せることが必要なふうには感じますけれども、安全な環境をつくるということは大切なことですので、ご指摘いただきありがとうございます。

森野委員よろしくお願ひします。

森野委員

同じようなことになりますが、愛知川小学校では、あいあいルームという場所を使って地域のボランティアの方に本を読んでもらったり、エプロンシアターをしてもらったり、クイズがあったり、折り紙があったり、そういうことを水曜日、特に昼休みにやっておられます。

この放課後をうまく利用して、そういうコーナーがあれば子どもたちも喜んでもすると思います。今日はけん玉行ってみようか、折り紙に行ってみ

	<p>ようかな、と色々なことに興味を持つてくれると思うので、そういうふうにうまくこの体育館を使用することができたらなと思います。</p> <p>ゲームの話が出していましたが、ゲームをしてはいけないということではないと私は思います。子どもたちの繋がりの場もあるし、お家が離れていてもできるようなシステムになっていて、友達と近くにいなくてもネットで繋がっていればできると聞きますのでゲームのコーナーがあってもいいのかなと思います。ある程度の時間等を決めて。あとはシルバー人材センターの登録される皆さんがどこまでやっていただけるかですが。子どもたちが楽しめ、ゆっくりやりたいことができる楽しい居場所であるということが一番いいのかなと思います。月曜日から金曜日の 14 時から 16 時までと書いていますが、帰りはどうするのですか。時間的にお勤めとかされていたら 4 時まで働いてという方が多いと聞いたことがあります。午前 5 時間制 40 分授業になったら、私達も早く帰ってこないと行けないと保護者の方が話しておられました。17 時までだったらもっといいのではないかと思いました。</p>
議長（有村町長）	保護者の迎えの状況、終了時間が 16 時であるところ等、補足の説明がありましたら事務局からお願ひします。
教育振興課 課長補佐	時間で縛りを設けさせていただいたのは、学童との関係性というところを考慮いたしました。学童を利用する児童が全てこちらの方に移っていくとなるとそこも課題があります。学童を利用する人とそうでない人の区別化を図ります。
議長（有村町長）	今、ゲームのことに関しては繋がるツールであるというご意見をいただきましたが、ゲームの利用やスマホ利用に関して有り無し等、事務局としては何か決まった考えはありますか。
教育振興課 課長補佐	学校の授業が終わってそのままなので、学校生活上にゲーム機を持っていくということは考えられないで、ないものと考えています。ただ、学校生活上において 1 人 1 台端末というものはございます。一定そこは利用ができるのですけれども、デジタルには触れられるけれども、一般的なゲームとかそういうのはない形に配慮していかなければと思っております。
議長（有村町長）	Wi-Fi は基本的に使えるという想定ということですか。
教育振興課 課長補佐	そうです。

議長（有村町長）	わかりました。それでは、黒川委員お願いします。
黒川委員	1年生から3年生の児童は丸々2時間過ごせるという時間になるのでしょうか。それとも15時までやられるとか。どんな感じなのですか。
教育振興課 課長補佐	基本的に14時から16時の2時間は過ごせるような形で考えています。やはり学校と違うというところは、各家庭で責任を持っていただくというなどあるので、高槻市の事例でいくと、今日は何時に帰ります、誰々が迎えに行きます、といったお約束カードみたいなものを事前に持つて行かせているようなところもございますので、必ず2時間過ごすというわけではなくて1時間で帰る子もいるかもしれないですし、各家庭の状況によって様々と考えております。
黒川委員	<p>子どもの選択肢を広げるとか、人との関わりの構築というふうに言われてましたので、自分が思ったのは、そこで選択肢を広げるためと、この辺でもスポーツとか芸術とかでも裾野を広げたい人たちはたくさんいると思います。毎日は無理だと思いますが、週に1回スポ小の人たちに来てもらって、野球とか何かを体験するとか、自由ばかりがいいとは限らないので、そういう日があってもいいのかなと思いますし、協力いただける人もいると思います。</p> <p>あと私は料理をしてるので、材料費は必要になりますが、料理教室を開いてそこで少しでも興味を持つてもらって、家庭でもしてくれたら、お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんも成長した姿を見て喜んでくれて、喜んでる顔を見たら、子どもたちも何かそういう興味が湧いて成長してくれるのじゃないかなと思いました。</p> <p>なかなかこの内容全部を把握できていないのですが、少しでも子どもたちの成長に繋がればいいかなと思いました。</p>
議長（有村町長）	ご意見いただいたスポーツの指導者の方やシルバー人材センター等、地域との調整とかこのあたりは事務局としてどう考えていますか。
教育振興課 課長補佐	<p>資料の18ページをご覧ください。愛荘オープンスクエアというものをシルバーさんの最低限の見守りの中でスタートができていけばいいと思っておりますが、私自身、ステップ2の部分が一番重要なと思っております。要はこういった事業に賛同して、協力しようという人材、この部分の掘り起こしというものが一番重要なになってくるのかなと思っております。</p> <p>そういう意味では、やはり学校教育だけではなく社会教育、まち作り</p>

	<p>というような部分との連携というのが非常に重要になってまいります。この地域の人材、どんなふうに関わってもらえるだろう、そういった方々がどんな体験プログラムを提供していただけるだろう、というところ、この辺がこの居場所事業にとって非常にポイントになってくるのかなというふうに思っております。</p> <p>現在、愛荘町の小学生を対象に実施している愛荘子どもの大学という事業があります。子どもの大学も、例えば全学年を対象とする水曜日、月1回水曜日の午後に子どもの大学による探究学習をするとかそういったイベント的なものも組み合わせながら、何かいいプログラムが展開していくればいいよねというところが円卓会議の意見としても出ておりますので、町としてもその辺の人材の掘り起こしの部分に注力していかなければならないなというふうに感じているところです。</p>
議長（有村町長）	<p>やはり、構想としては、地域人材の活用の希望もあるということですね。そのあたりの実際の材料費等々については、今後の検討ですね。</p> <p>コミュニティスクールとかも地域全体がすごくコミットするなという方もおられますけど、何か連携はありますか。</p>
生涯学習課長	<p>放課後の居場所作りで非常に大事なのは、子どもたちが安心して過ごせる場所を、地域・学校が連携して提供できる仕組み作りではないかなというふうに考えております。</p> <p>特に生涯学習課では令和3年度からコミュニティスクールを立ち上げておりまして、学校と地域との連携体制を構築しまして、未来を担う子どもたちの教育を地域全体で支えるために、地域学校協働活動の企画立案等を含めて、地域連携協議でありますとか、推進員とか地域ボランティアのご協力を得ながら、現在進めさせていただいているところでございます。</p> <p>今後はこういったコミュニティスクールの活動を中心に地域と一緒に取組みを今後も充実させられるように努力していきたいと考えております。</p>
議長（有村町長）	ありがとうございます。連携も考えているということですね。
教育長	<p>コミュニティスクールはご意見番というよりもそこから実動部隊も作っていただくことで、広がりが出てくるというふうに思っております。</p> <p>学校による推進力の差、人の集まり具合とか、その違いはあると思いますが、町長がおっしゃるように、このコミュニティスクールを一つの子どもの居場所作りの核となる部隊としてお願いする、それが持続可能な形で続くということは非常に大事な視点ではないかというふうに思っており</p>

	ます。
議長（有村町長）	それぞれの身を守った上で連携をして、お互いに手を取り合うっていうのが一番理想的だと思います。では副町長、お願ひします。
副町長	<p>授業時間短縮による課題の中で学力低下というのが心配されるというような声が謳われていて、居場所作りというのが寺子屋的な、宿題等、学力向上のために何かやってくれる場所なのかと期待されるところが大きくあるように感じています。保護者のニーズにどう応えていくかっていうのが一つ課題かと思います。</p> <p>この場所がどういう場所であるのかというのが明確に示せるといいのかなというふうには感じています。あと個人的には先ほどゲームの話もいろいろありましたけれども、せっかく人が集まっているのであれば、家でできないこと、みんながいるからこそできることを何かさせてあげられるというのがいいのかなと思います。</p> <p>何かしら自分で遊ぶこととかを考えるのができるような子どもたちだと思うので、色々な物を置いてあげたりして、勝手に自分で考えながらやっていくっていうような、それが独りぼっちでいるっていう子ができるだけいないような感じでシルバーさんに見守ってもらえるというようなところが理想なのかなとも感じています。</p> <p>もちろん1人がどうしてもいいという子もいるから、無理やりにとは思いませんが、できるだけ人と人が関わり合って、一緒に、楽しくできる時間が過ごせる場所になればいいかなというふうに思いました。</p> <p>あとは地域の方をどこまで広げるかというお話もありましたけれども、大人が子どもたちの中で関わっていく姿を見せてあげることによって、その子たちが将来また自分たちが大人になったときに、その時の子どもたちに同じように関わっていくような人が育つのではないかというふうに感じております。</p>
木津委員	学校から帰らずにそのまま多目的室等でこういう事業があった場合、ほとんどの子が行きたいなと思うと思うのですが、それでも今日は行かないで帰ると言う子もいると思います。そうなると1年生2年生は今でも各字で1人、2人とかでしか帰っていないところ、その内2人がこの事業に行くとなると、1人で帰る子が出てきてしまうので下校が心配だなと思いました。そこも検討いただけるとありがたいです。
教育長	これから作ろうとしている放課後の居場所というのは、自分たちで判断して、そして選択して、決定して行動するということで、ここは動じては

	<p>いけないところかなと思っています。</p> <p>子どもたちが大人から用意周到、上げ膳据え膳で準備をされて、その中でいろんなことを一方的に受身的に提供される、こういう居場所は今までありましたけれども、それはかえって、子どもたちの可能性や力の伸びを阻んできたのではないかと思っています。</p> <p>これから作ろうとするものは、やはり子どもたち自身が自分の意思で考え決定して活動していく、そういう部分が必要だと思っています。</p> <p>実際、3年生以上は授業時間から考えて、14時から16時の時間いっぱい利用できるというのは極めて限定的です。1年生の子どもがたまに5時間の日がある、あるいは水曜日は全校5時間までとなりますので、時間的には限られているかもしれませんけれども、でもそこに来る子が「今日はこうしよう」、一方的に誰かに何かしてもらおうとかばかりではなく、経験を重ねる。もちろんそこで宿題をしてしてもいいと思っています。</p> <p>将来的にはそこに大人の方が加わっていただく、今後これから空き教室がでてくる段階において、常時学校の中に地域の人がいてくださる、それは地域の方にとっても潤いの場である、昼休みでも地域の人と交流したり、昔の遊びを教えてもらったり、今だとゲストティーチャーとして、セッティングをして来ていただいているが、もっともっと自由に広がる、そういうことで、子どもにとっても、大人になっても、そんな形で進んでいければいいと思っています。では、保護者はどうするんだといったときに、やはりご家庭では、保護者の方にできる範囲でできることを頑張ってくださいというところで、整理されたところが必要なのかなというふうに思っております。</p>
森委員	<p>いろんな話が出ていて、それぞれ事情があると思いますが、これが現実に生み出されてこういうシステムになっていくというのは、結構時間がかかると思います。</p> <p>だから、そこに行くまでにいろんなことにぶつかって、検討をして、幅を持たせて、ゆとりをもたらせて、愛荘町のパターンになっていくとのを見たいなと思います。円卓会議でも、他の方々はこうゆうことができるという色々な話が出ています。理想はいっぱい出してもらう、でも現実、今すぐこれできるかというと難しい、これができるようにするためにどうするか考えるというのが会議の動かし方だと思います。</p> <p>我々も教育委員として意見は出しますが、これで始めましょうとやってしまうと、強制的になってしまふ部分が出てくるかもしれません。それだとこの事業の意味が違うように思います。子どもたちを中心に考えていく、事業が出発してからでも、こここの部分どうだろうなというものが出てきたときにはもう一度話し合いができるように、ゆとりを持っていただきたい</p>

	<p>て、やっていくなかで変わっていくことも必要だと思います。意見としてはどんどん出していただいて、絶対これでないと駄目というかたちではなく出発してもらえたならと思います。</p>
議長（有村町長）	<p>色々なご意見をいただきましてありがとうございました。 以上で、本日の協議事項は全て終了しましたので、以後の進行につきましては、事務局でお願いします。</p>
教育次長	<p>ありがとうございました。 それでは閉会のあいさつを教育長よろしくお願ひします。</p>
教育長	<p>本日は長時間にわたり、「子どもの放課後の居場所づくり」について熱心にご協議いただき、誠にありがとうございました。 子どもの居場所については、過去には学校5日制が導入される際など、これまでにも議論が交わされてきたところがありますが、その時の居場所はまさに受け皿という意味合いであったと記憶しております。現在では少し意味合いが変わってきているのではないかという気がしております。 それは、今学校現場で、これまでの一斉・一律が大部分の指導の中で丁寧に丁寧に指導を工夫してきたことが、かえって子どもが自ら資料を読み取ったり、別の考え方や解き方に辿り着いたり、学びを切り拓き、深掘りしたりする経験を奪ってきたのではないかという反省があるのと似通っています。 町長が常々話される生き物としてのスイッチを入れるという自分自身で自分の命を守ったり、自身の身を守ることや自ら学び方を工夫し、自身の中に学び取っていく自律のスタンスに満ちた子どもの育成につながる居場所こそが、今、放課後の場、学校外の場でも必要となってきていると考えます。 そのようなことを踏まえつつ、今後も議論を重ね、よりよい居場所の実現を図っていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひいたします。</p> <p>本日は誠にありがとうございました。</p>
教育次長	<p>以上で、令和7年度第2回の愛荘町総合教育会議を終了します。 本日はありがとうございました。</p> <p>午後3時20分　閉会</p>